



認められる喜び 関わる喜び 高まる喜び



早通小だより

ホームページ <http://www.hayasho.city-niigata.ed.jp/>

学校だより
新潟市立早通小学校
第2号
令和5年6月13日

金曜日の運動会

校長 岡田 義則

季節外れのインフルエンザが大流行。15日（月）には学級閉鎖のため1・2・5・6年生がいない状態に。18日（木）まで3・4年生の応援練習の声だけが響いていました。20日（土）に予定していた運動会は23日（火）に延期。しかし、その日も雨のため再度延期。26日（金）の実施になりました。

当日までの延期した期間には、更なる感染拡大防止ため、全校の応援練習や予行練習等ができず、それぞれの学年がそれぞれに練習するしかありませんでした。加えて、5年生が学級閉鎖。当日は不参加となり、運動会を成功させるために欠かせない「係」の役割も変更せざるを得ない状況。不安要素だらけ。しかし、前日に行った応援練習は、児童一人一人が代表選手と思えるほど、前向きに頑張ろうとしている姿が多く見られました。各学年が練習をしっかりと行っていたことを痛感し、当日はいい運動会になると確信できました。

運動会当日。天気は薄曇り。少し肌寒かったのですが、体を動かす子どもにとっては、とても良いコンディションに。加えて、度重なる延期にもかかわらず、多くの保護者や地域の方々からも足を運んでいただき子どもたちには大いに励みになったことでしょう。

あえて比較するのなら東京オリンピックが1年間延期後に実施され、多くの感動を呼んだことと同じ。私にとってはそれ以上の感動を体感できた運動会になりました。

東京オリンピックでのスケートボード女子パークの決勝戦を覚えているでしょうか。日本人が金と銀のメダルを取りましたが、メダリストよりも4位になった岡本碧優（みずく）選手の演技に世界中の注目が集まりました。技の難易度を落とせば、メダルを取れたのですが、難しい技に挑戦して失敗。その失敗した岡本選手の演技終了後、他の選手たちが近寄り、担ぎ上げて健闘を称える場面がありました。悔し涙を見せていた岡本選手を笑顔にしたのはライバルの選手。オリンピックにおける日本のスポーツ界にあった「勝敗」「ランキング」にこだわる「勝負の価値観」を変える岡本選手の演技だったと当時は報道されていました。

今年の運動会では、より良い順位を取りたくて張り切り、結果について一喜一憂することはありましたが、同時に一緒に競技している友達を称える姿が多く見られました。自分が走り終わった後、自然と「〇〇さん頑張って！」と応援する姿、走り終わった友達に「頑張ったね」のハイタッチ。ベストを尽くしている友達を労う優しさを多く感じました。まさに岡本選手を励ましたライバルの選手のように。

転んでも、間違えても、順位が後ろの方であってもスローガンにあるように最後まで「やり抜いている姿」が多く見られ感動しました。

6年生は、小学校最後の運動会。とてもかっこよい姿を多く見せてくれました。いない5年生の分、準備・当日の運営をしっかりとやり遂げました。応援、ダンス、徒競走、リレー。「頑張ろう」「一生懸命やろう」としている気持ちが伝わってくるキラキラした姿を多く見せてくれました。下の学年のあこがれになったことでしょう。素晴らしい6年生です。

5年生は、6月23日にミニ運動会を実施します。素敵な姿が見られることでしょう。

声出しの応援、PTAの方々の挨拶と万歳も復活。制限のない運動会のスタートにふさわしい素敵な内容になったと思います。これからも保護者や地域の方とかかわりながら実施する行事が予定されています。子どもたちの成長のために引き続き、ご協力の程、よろしくお祈りします。

＜大運動会を振り返って＞

今回の運動会では、インフルエンザの流行や悪天候などに見舞われ、思うように練習を行うことができませんでした。しかし、短い練習時間の中でも、子どもたちは集中して、一生懸命練習に取り組んでいました。運動会当日の応援合戦では、久しぶりに声を出しての応援を復活させました。応援団が全力で声を出し、全校児童もそれに合わせて大きな声で応援する姿は、とても迫力がありました。団体種目では、異学年の子どもたちが協力して勝利を目指す姿に胸が熱くなりました。想定外のことが多くあった運動会でしたが、お家の方々からの温かいご声援のおかげで、子どもたちは運動会を全力で楽しむことができました。ありがとうございました。

体育主任

今年度の応援団は、一人一人が自主性を発揮して取り組みました。各学年の応援団は、クラスの希望者の中から選ばれた人たちだったので、活動に対する一生懸命さが伝わってきました。今年度の活動は昼休みのみで行いました。それぞれの組に分かれ、職員は見守り、自分たちで言葉や動作を考えて、試行錯誤しながら良いものを作り上げていきました。本番の前は度重なる学級閉鎖や開催日延期、5年生の不在等、様々な困難がありました。しかし、応援団は限られた時間の中で練習し、全校へ必要な指示を出したり、自分の役目を果たしたりしながら一生懸命やり抜きました。応援賞という結果はつきましたが、どちらの組も達成感に満ちた応援団の活動でした。応援団以外の子どもたちも全力で応援していました。

応援団担当



＜力を出し切った運動会！＞



白組のみんなは、おしゃべりや土いじりをしている人が全くいなかった。それを見て、私も頑張らなきゃと思った。自分はみんなをまとめることができる「きらリーダー」になれた。

白組 応援団長



自分の役目は応援だった。応援賞は取れなかったけど、競技優勝は取れた。これは、応援があったからだと思う。6年生みんなは、自分のやるべきことをやっていたので、これこそ「きらリーダー」だと思った。

赤組 応援団長

